
少尉と軍曹3

hiromaru712

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少尉と軍曹3

【Nコード】

N4208BA

【作者名】

hiromaru712

【あらすじ】

「ポエム24」という遊びがある。

Twitter詩人・歌人が集い#poem24というハッシュタグで午前零時丁度に決められたお題に沿った詩や歌を一斉にPostするという、新世代の雅な遊びだ。

開催日程は不定期。開催告知も不定期。お題提案者は毎回参加者の中から選ばれるが、その全てを主催者である若きTwitter詩人が任意に（有り体に言えば気紛れに）決定している。参加者はその詩人のアイコン（本アカウントは頼杖の男性イラスト、ポエム2

4用サブアカウントはメロンパンを頭に載せたキツネ少年キャラの一挙手一投足に自然ハラハラドキドキすることになる。この物語はポエム24参加者である著者が、そのハラハラドキドキの主催者観察風景を擬人化し、Twitterタイムライン上に主催者のツイートがある度にタイムリーにリアクションとしてPostしていたものを、ほぼそのまま纏めたものだ。ツイートを順に貼り付けただけなのでお見苦しい点も多々あるかとは思いますが、そういった事情なので御容赦願いたい。なおコンピュータや情報関連のそれっぽい用語や単位、数値は架空のものであることに留意されたい。

F o x t r i a n g l e

【『少尉と軍曹』はフィクションです。実在の人物、団体、機関とは一切関係ありません】

軍曹「関連ツイートなし。メロンパン値現在0.8m r p。笠岡沈黙。開催兆候なし。」大槻「よし。…所で軍曹。君は短銃射撃が上手いそうだな。」「どうでしょう。ゲームの成績は良いですが。」

「二曹は格闘技、少尉は狙撃…。図ったように射程違いか。」「各々の人付き合いの仕方と同期してますね。」

二曹「失礼します。…お見舞いに参りました。」少尉「ああ、二曹。わざわざすまないな。」「お加減いかがですか?」「私自身は痛み止めさえあれば…消毒と包帯替えの時のみ通院で大丈夫だと思うんだが、肺は油断禁物だそう。恒常的に外気が出入りする器官だから。退屈な一週間になりそう。」

軍曹「笠岡より転送ツイート。メインモニターに出します。」大槻「これは…詩、なのか?」「これ自体は…どちらかと言うと詩、とは言いつらいですが。」「ですが…なんだ?」「こういう感性や生き方は…詩人らしいと言えるのでは?」「ふむ…なるほどな。」「そういう意味ではこれも…詩、ですかね。」

二曹「お見舞いに…リンゴ持って来ました。」少尉「リンゴ…。」
「どうかしました?」「いや、ありがとう。」「剥きますね。」
「…。」「なんです?」「いや、私服の君を見るのは初めてだ。新鮮だな、と。」「…変ですか?」「君のキャラに合っていて…良く似合ってる。…可愛いと思うよ。」「…?」

二曹「……………」少尉「……………」剥けました。どうぞ。「ありがとうございます。頂きます。」……………」「……………」美味しい。上等のリンゴだ。奮発したな。「いえ、そんな。あ、入院中退屈なんじゃないかと……………」雑誌や小説を適当に見繕って買って来たんです。置いておきますね。」何から何まで……………」気が利くな、二曹。」

石野「邪魔をするぞ。おや……………」先客か。「少尉「司令！」二曹「え！司令？……………」お疲れ様です！」石野「楽にしている。退屈してるんじゃないか」と見舞いに来たが……………」逆にお邪魔だったかな？」少尉「いえ。お心遣い、痛み入ります。」二曹「……………」石野「お、リンゴか。一つ貰うぞ。」

石野「田川少佐だがな、意識こそまだ戻らんが……………」峠は越した。取り急ぎ命に別状はないそうだ。「少尉……………」そうですか。「石野「気に病むな。体面を保つ為に、有色人種の学生をスケープゴートにしたCIAに100%責任がある。学生とその家族は気の毒だとは思いますが……………」運が悪かったんだ。」少尉「……………」」

石野「……………」にしても時間が経てば人は変わるな。貴様はリンゴだけは大学の苦手だったろう？」二曹「え？」石野「トラウマがあつて口にすると気持ち悪くなるんだつたな。今は平気なのか？」少尉「……………」ええ。」石野「だが読書の趣味は変わつてない。綾辻行人、島田荘司、京極夏彦……………」貴様の部屋で見た本ばかりだ。」

二曹「……………」少尉の……………」お持ちの本。「石野「これは私からの差し入れだ。桃の缶詰めとこれは缶切り。使い捨てのフォーク。バイクのとクロスワードパズルの雑誌。筆記用具。ノンアルコールのジントニック。それから……………」今日は貴様の誕生日だったな。」二曹「た……………」誕生日……………」日……………」石野「誕生日おめでとう、少尉。」

石野「子供っぽいとは思ったが…バイクの模型だ。マルチイストラーダ1200。捜したがなかなかないものだな。工具と塗料はオマケだ。これで暫く暇は潰れるだろう？」少尉「ありがとうございます。」二曹「あの、私…用事を思い出しましたので…失礼します。」石野「なんだ、気を遣う事はないぞ。」

石野「少尉と私は、今は別に恋人同士という訳ではない。単純に上官と部下だ。にがやかな方が少尉も気が紛れるだろうし。」二曹「…いえ。本当に用事なんです。すいません少尉。なんか…私のお見舞い。」少尉「二曹。君の気持ちは伝わった。リンゴは…美味しかったし、好きな小説は何度読んでもいい。」

二曹「…じゃあこれで。失礼します。」少尉「ありがとう。二曹。気を付けてな。」二曹「…はい。」

二曹（何やってんだろ…あたし…。）

軍曹「マルヒト回る。関連スイートなし。メロンパン値1.6m r pから緩やかに下がる。笠岡沈黙。兆候、ありません。」大槻「よし。ログを送信してクローズだな。…少尉は今頃どうしてるかな？」
「美人看護婦に鼻の下を伸ばしながら、検温でもされてるんじゃないですか？」

少尉（…なんか…疲れたな…。）

軍曹「ちいーつす。調子どうですか？少尉。」少尉「おはよう。軍曹。挨拶はちゃんとしろ。すまないな、気を使わせて。」
「日頃お世話になってますから。これお見舞いです。」
「…携帯ゲーム機？見たことない型だ。」
「ファミコンのカセットが使える携帯機です。」

レアでしょ？」「…どこで買ったんだ？」

軍曹「これ。カセットです。『カラテカ』と『トランスフォーマー・コンボイの謎』。」「少尉「ありがとう。…貰っておいてなんだが、私の記憶が確かなら…ファミコン3大クソゲーの内の2つ、じゃないか？」「…知ってましたか。じゃあこれ。『いつき』と『けつきよく南極大冒険』。」「…ありがとう。」

軍曹「二曹、お見舞いに来ました？」「少尉「ああ、一昨日な。今読んでるのは二曹がくれたお土産だ。」「姑獲鳥の夏！名作ですね。」「読んだのか？」「DVDで観ました。」「実写映画版、か。」「本は厚くて。映画なら2時間で内容が分かります。」「…味気ない時代だな。」

軍曹「少尉、眼鏡じゃないですか。」「少尉「洗浄液を切らしてな。次に洗濯に帰る時までには眼鏡だ。」「写メ撮っていいですか？」「変なキャプション付けてネットに晒すのか？」「そんなことしませんよ。ハイ、バター。」「……。」

軍曹「二曹、なんか言っていました？」「少尉「それが…同じタイミンで司令が来てな。」「へえ…って、え？鉢合わせですか？」「ああ。二曹は用事があると言って程なく帰った。」「なんてことするんですか。」「…私のせいかな？」

軍曹「引き止めなかったんですか？」「少尉「司令が引き止めたんだ。気を遣うな、我々は今は別に恋人じゃない、賑やかなほうがいいとな。」「…で？」「二曹は本当に用事なんだと、それでも帰ったんだ。」「…少尉。まったくもう。」「…あのな。私にもどうしていいか分からない時があるんだ。」

軍曹「その後フォローとかは？」少尉「いや…特には。」「一言すまん、とかありがとうとか…ないんですか？」「わざわざ電話するの？」「Twitterですよ。アカウント交換したんでしょ？」「ああ、それは気付かなかった。確かに…って私と二曹がアカウント交換した事をなぜ君が知ってるんだ？」

軍曹「今DMして下さい。彼女きつと凹んでいます。」少尉「しかし今更…一昨日のことだぞ？」「いいから早く！」「…」二曹、一昨日は妙な事になってすまなかった。リンゴはあの後全部食べた。貰った小説も今読んでいる。誕生日の事は知らせていなかったからな、気にするな。心遣い、ありがとう。『』

少尉「これでいいか？」軍曹「まあ…80点ですね。」「……」。送った。「少尉。二曹はきつとまた来ます。その時は、天気が良いれば散歩に、悪ければ喫茶店に誘って下さい。今回の埋め合わせに」「…構わないが…君は何をプロデュースするつもりなんだ？」「何が生まれるかは少尉と二曹次第です。」

二曹「ヒトサン回る。関連ツイートなし。メロンパン値直近一時間平均0.4mrp。笠岡沈黙。開催兆候なし。」石野「つまらんなどうせなら開催時のオペレーションを経験したい所だが。」「年末に開催ペースを下げる、とアナウンスがありましたから。」「ふむ。」「毎日でも大変ですけど…無いのも寂しいです。」

二曹「少尉からあまりに手すきの際には本任務に差し障りのない範囲で『九尾』『ナインテイルズ』について資料を集めるよう申し送りを受けています。」石野「成る程な。所で二曹。君は少尉のことが好きなのか？」「がっ！…なっ…はい！いえ、ど、どういっご質問ですか？」「…いや、聞いた通りだが。」

二曹「今は状況中です司令。」石野「言いくければ無理にとは言わんが…私なりに部下との人間関係を慮つてのことだ。好きなんだな?」「…はい。」「ふふ…。」「…。」「何が可笑しいんですか?」「…いえ。」「少尉と私と君とで三角関係か、と思つたら…笑えた。気を悪くしたなら謝ろう。」「

石野「…で、どうするんだ?」「二曹「えーと…どうする、とは?」「少尉に気持ちは伝えたのか?伝えてないなら伝えるのか?伝えるならいつ?どうやって?…などなどだ。」「…言つていいですか?」「遠慮するな。」「誰も彼もが司令のように行きません。人を好きな気持ちについてなら…尚更です。」「

石野「もつともだ。この際だから正直に言おう。知つての通り、私は三月までに少尉を口説き落としとして南スーダンに連れて行きたいと思つている。」「二曹「…はい。」「立场上命令もできるが、それはせん。奴の自由意志で選択して貰いたいからだ。私との新たな関係を。」「…。」「私はな…。」「

石野「自分のこの性格が恨めしい。男勝りで合理主義的で…だから普通の女性の心の機微など、男性以上に理解し難い。もじもじしたり恥ずかしがったりする能力が欠如している。意識して演じても気持ち悪いだけだしな。」「…恥ずかしがったりする、能力。」「多分…女として恋人や妻や母親には向いてない。」「

石野「だから少尉に夫になってくれ、などとはとても言えん。向こうで子供たちを教育し、一緒に新しい国の親になってくれ、と言つのが関の山だ。」「二曹「司令…。」「何が言いたいかと言つとだな、この件に関する君の形勢は君が思っている程、不利ではない。」「…。」「

石野「有利とも言えないがな。三月に向けて私は私なりに攻勢に出る。少尉にそばに居て欲しいと思う気持ちは、まず君より切実だ。私も必死だと心得ておけ。」二曹「一ついいですか?」「遠慮はいらんと言っている。まどろっこしい。」「何故私にそんなお話を?」「さあ何故かな?私にもよく分からん。」

石野「強いて言えば、同じ男を愛した同志だからかな。私の事を君に知っておいて貰いたい気持ちになった。」二曹「私、司令の事を誤解してました。」「だろ?自分で言うのもなんだが私は誤解され易さには定評がある。」二曹クッス「結局選ぶのはあの仏頂面の朴念仁だ。恨みっこなし、でな。」

少尉「…つくし!」

二曹「関連ツイートなし。メロンパン値0.8m r p前後で微動。笠岡沈黙。開催兆候なし。」石野「どうやら今日は無さそうだな。」「油断はできません。少尉曰く、化かすのが狐…だそうです。」「…そうだな。その通りだ。前言撤回だ。マルヒトまでは現体制を維持。意気は高く保て。」「了解。」

石野「『九尾』…『ナインテイルズ』の資料な、少しは集まっているのか?」二曹「いえ。今は何も。J C I Aでも過去に九尾と言う特務班があり、現在はナインテイルズと呼ばれる隊内セクトがある、という確度の高い情報は持っていたのですが、肝心のメンバーや実際の活動内容は調査中だったんです。」

石野「文化の防衛、か。」二曹「今、軍曹と相談して情報収集用の

オートマトンを作ろうかと言っている所です。対九尾専用の。」「
ほう。」「…高木少佐は空爆で落命しています。九尾の脅威度は、
陸幕二部やJ CIAのアセスメントより、かけ離れて高いかもしれ
ない…と少尉はおっしゃっていました。」「

石野「成る程な。その為の予算申請か。」「二曹「予算申請？」「あ
あ。少尉がな。新PCは一台でいいからと、色々と物騒な物の予算
を申請して来てるんだ。」「…対物ライフルで狙撃されたりします
からね。」「導入希望の装備リストを見た時は過剰な装備に思えた
が…あながちそうでもない、かもな。」「

石野「二曹、それと明日だがな。」「二曹「はい。」「急ですまんが
…午後から広島島の陸自技術開発局に行ってくれ。」「開発局？どう
行った任務でしょう？」「極秘の新装備のモニターに格闘技能の高
い人材が必要なんだそうだ。予定ではヒトヨン開始でヒトロクには
終わる。その後は直帰でいい。」「了解。」「

少尉「……。」「【パチン】

少尉（…久しぶりだな…プラモデル。）

軍曹「ういーあーほーりん？ほーりんとうーらああい…よし。出
来た。少尉の眼鏡姿の写真パネル。」「

二曹「フタヨン回る。TL異常なし。メロンパン値1以下で安定。
笠岡沈黙。兆候、ありません。」「石野「狐が現れたらデフコン3、
お題交渉が始まったらデフコン2、お題が投下されたらデフコン1

…だったな。」「はい。」「五分前に暗転、二分前にアナウンス？」「その通りです。」「ポエム24、か。」「

石野「何事もないな。一息入れるか？」二曹「ですね。コーヒー入れます。司令はブラックにミルクを三滴、でしたね？」「よく憶えてたな。…だが正確ではない。三滴は自分で入れるんだ。」「ご自分で？」「三滴では味は変わらん。かき混ぜたコーヒーの表面にミルクを三滴垂らして…模様を愉しむのさ。」「

二曹「え？解散？」石野「どうした二曹。」「…TLに『東京事変解散』とのツイートが。」「トーキョー事変？クーデターか？いつの事変だ？記憶にない争乱だ。」「いえ…JPOPのグループです。」「…物騒な名だ。そういうのは疎くてな。AKBがなんの頭文字かも知らん。」「…頭文字なんですか？」「

二曹「関連ツイートなし。メロンパン値0.2。笠岡沈黙。マルヒトまでマイナス5、4、3、2、1…今！プラス1、2、3、4、5…。」石野「状況終了。現時点でログをクローズ。秘匿圧縮、規定各位に送信後、クローズチェックを実施。退室予定、マルヒトフタゴ。」「マルヒトフタゴ退室、了解。」「

二曹「クローズチェック終了。残るは我々の退勤のみです。」「石野「よし。退勤しろ。ご苦労だった。二曹。」「お疲れ様でした。」「

石野「二曹は駅か？送ろうか？」二曹「いえ。運動がてら歩いて帰ります。」「恋敵の助手席は気詰まりか？」「逆です。ライバルが気持ちのいい方と分かったので…気分が良くて。月でも見ながら歩きたい気分です。」「そうか。私も君が相手なら総力を惜しみなく出せる。覚悟しておけ。」「お手柔らかに。」「

「曹」

…約束はいらないわ？」

F o x f i g h t !

【『少尉と軍曹』はフィクションです。実在の人物、団体、機関とは一切関係ありません】

軍曹「へえ…司令とそんな遣り取りが。」二曹「ええ。司令の印象が180度変わりましたよ。」「…やっぱり恐ろしい相手だな、司令。」「…は?」まさか…司令になら少尉を盗られてもいい、なんて気持ちになっちゃいまいな?」「…えつと。」戦争と恋愛においては凡ゆる手段が正当化される、だよ。」

二曹「司令の心理戦術…計算した上での誘導だと?」軍曹「いや。…多分だけど司令はそこまで意識してない。本当に自然体で取った態度だと思う。」「…ですよね。」恐ろしいのはそうして取った態度が心理戦上一番適性な戦術として機能してる点だ。直感が状況に対して最適化されてる。」「…。」

軍曹「アインシュタインは数学の成績が悪かった。」二曹「答えは分かるけど…それに至る式が書けなかつたんですね。」「うん。司令は何気ない会話で君の司令への戦意を大きく挫いて見せた。心理戦として全く意識せずに。」「…。」「ふんどし締めてかからないと。」「…ふんどしなんてしてません。」

二曹「あ…私、もう行かないと。」軍曹「秘密兵器のモニターだっけ?」「はい。副司令が来られるはずですよ。あと宜しく願いします。」「あいよ。…今日は直帰だったね?」「ええ。」「帰りに病院寄って…これ、少尉に渡してくれない?」「なんです?」「渡せば分かる。頼んだよ。」「了解です。」

軍曹「…やれやれ。世話が焼けるなあ…。」

係員「福山基地、仲本二曹。」「二曹「はい!」「まずは身体測定です。これに着替えて。」「はい。(何これ…全身タイツ?)」「

係員「次は格闘戦の模擬戦です。府中基地、原田一曹。」「原田「ウス!」「係員「福山基地、仲本二曹。」「二曹「はい。…この格好のままでですか?」「係員「ええ。」「原田「ルールは?」「係員「特にありません。各々の判断で相手の継戦能力を奪って下さい。」「原田「ウス。」「二曹「了解。」「

原田「…ごぼ。」「係員「いかん!泡を吹いてる!担架…いや!救急車だ!」「二曹(やだ…なんかやらしい感じだったから強めに行っちゃった…)」

係員「仲本二曹、もう一戦です。宇品基地、堀内三曹。」「堀内「シッ!早く始めてくれ。」「二曹「…お願いします。」「(ステップを踏んで…キックボクシング?)」

堀内「……。」「係員「落ちてる!仲本二曹!落ちてます!ストップストップ!」「二曹「え?あ、すみません。」「(見かけ倒しか…)」

係員「仲本二曹、もう一戦。」「二曹「私だけ模擬戦が多い気がしますが…あと何戦あるんでしょうか?」「係員「これで最後です。疲れましたか?」「いえ。ヒトロクには終わると聞いていて…この後予定を入れてしまいました。」「なら大丈夫。次の模擬戦が終われば今日はお終いです。」「…分かりました。」「

係員「八木基地、名倉軍曹。」「名倉「はい。」「二曹「…。」「(この

人！身のこなし…足の運び…。） 名倉「無手、石雲流…名倉銃士郎です。お願いします。」 二曹「夜天光明流…仲本美晴です。お願いします。」（…石雲流…東国一、無手最強、か。）

名倉「……。」「二曹（…だめ。動けない…。）」

二曹（…何をしても、やられるイメージしか湧かない…。怖い。…
父さん…！）

軍曹「笠岡より入電。4 P O S T。」 大槻「4 P O S T？4 時 P O S Tではないのか？」 「今日は4 P O S Tです。」 「…ふむ。」

軍曹「笠岡より再度入電。時 P O S T。」 大槻「まあ…こんなこともあろう。」

美晴「まっくらだよ？」 父「そう見えるだけだ。よく見てごらん。」
「…。」「目をこらして。集中するんだ。」 「あ！みえた！おほしさま！いっぱい！おそろじゅうに！」 「そうだろ？暗闇の空にも小さな光を見出す…夜天光明流の奥義はそこにある。それをわすれるな、みはる。」 「うん！」

二曹（暗闇に…光を見出す…。集中、するってこと…？） 名倉「……。」「二曹（…汗？名倉軍曹…汗をかいてる！…同じなの？あの人も…動けない？…怖いのか？）

二曹（…条件は五分。何か…きつかけがあれば…。） 係員「あの！始めて下さい！」 名倉「！」「二曹（…乱れた！）」

二曹「はあっ…！」名倉「しええいつ…？」【ズシン…ッ？】

名倉「ぐっ…！」二曹「きゃあっっ！」

二曹（速い…だけじゃなくて…重い！次の手を…！）名倉「待った！」「二曹「え？」」「…参りました。」「え…そんな、なぜ…？…實力は五分と五分…いいえ！模擬戦が長引けばきつとあなたが…。」「…場所と格好が良くない。機会を改めて再戦にしましょう。この場での決着は…どこか引つかかる。」「

二曹「再戦？」名倉「夜天光明流…西国無双、戦場不選の誉れは伊達ではなかった。こんな可愛いお嬢さんが継がれているとは。」「正当後継は弟が。私は余録です。」「面白い膝の使い方ですね。膝の隠れる袴だったら、さっきの一撃は躲せなかった。」「…未熟で恥ずかしいです。」「いずれまた。必ず。」「

二曹「有難うございました。」「名倉「有難うございました。」「

二曹（…すっかり遅くなっちゃった。軍曹の荷物、少尉に届けな
きゃ。）

二曹「…こんにちは。」「少尉「おお、二曹…。どうした？制服…仕事帰りか？」「軍曹に届け物を頼まれました。」「届け物？」「渡せば分かる、と仰ってましたが。」「心当たりはないが…開けて見るか…これは…。」「少尉の写真パネル？あ！眼鏡かけてらっしゃる！」「…なんのアクティビティだ？」「

少尉「あいつはこれをどうしろと言うんだ？」「二曹「折角だし…飾

つては？」「眼鏡かけた自分の写真を飾る趣味はない。…すまないが二曹、病院の外に持ち出して処分してくれないか？その辺のゴミ箱に捨てさえしなければ、処分の方法は君に任せる。」「はい！分かりました！」「…やけにいい返事だな。」

少尉「この前はすまなかつたな。なんだか妙なことになって。」「二曹「いえ、少尉のせいではありませんし。あ、DM有難うございました。すみませんリプレイせずに。読んだのが深夜で。」「構わないさ。…良ければ少し歩かないか？この部屋の景色も見飽きた。外の空気が吸いたい。」「はい。」

少尉「今日は早番か？」「二曹「いえ、出向から直帰です。広島の技術研究所。新兵器のモニター、という話だったんですが。」「ほう、どんな？…いや、守秘義務があるか。」「いえ。特に口止めはされていません。なんか全身タイツみたいな服に着替えさせられて、身体測定の後、格闘戦の模擬戦でした。」

少尉「そのどこが…新兵器のモニターなんだ？タイツに何か秘密が？」「二曹「さあ…要所要所にマークーみたいなものは付いてましたが…タイツ自体は普通のタイツのようでした。」「ふーん。模擬戦は？勝ったのか？」「三戦して二勝…一分け、です。」「君と引き分ける奴がいるとは。」「私なんて…。」

二曹「まだまだ未熟です。今回で改めてそれを思い知りました。」「少尉「君の武術は…柔術？」「いえ、打撃もありますし、刀や槍や手裏剣も…いくさ場で戦う術は殆ど。古流武術は元来そういう流派が主流だったんです。時代の流れと共に分派が進んでしまいました。」「ふむ。…高木少佐の時…。」

少尉「苦もなく高木少佐の懐に滑り込んでいたろう？あれはどうい

う技術だ？」二曹「…秘儀に当たるので他言無用でお願いしたいのですが。」「ああ、そういうのも…本当にあるんだな。すまん。」「いえ。特別な膝の使い方があるんです。夜天流では叢雲、と呼ばれる技で。要はフェイント、なんです。」「

二曹「今日対戦して引き分けた…八木基地の名倉軍曹…。一度見ただけでそれを見抜いて破って来ました。加えて『膝が隠れる袴だったら躲せなかった』なんて…。」「成る程…だから古武道の道着は袴なのか。」「流派にもよると思いますけど…うちの場合はまさにそうです。足運びは基礎であり…同時に奥義です。」「

少尉「つまりお家が…武道の家柄？」二曹「…と言うより武家、ですね。嘘か本当か後鳥羽上皇の時代から近衛のツワモノだとか。」「…だから娘でも自衛隊、か。」「銃を持って走り回るのは流石に…情報や諜報の、少しでも非武力な方を志願したのはせめてもの反抗で。」「

少尉「先端ソフトウェア工学の専門家で古武道の達人、か。すごいな。二曹は。」「二曹「少尉こそ。一流の情報士官で狙撃手…それだけでなく福大の天才、と呼ばれていたのでしょうか？」「…どれも中途半端な実績で誇りづらいな。狙撃も煎じ詰めれば数学だ。」「ク…データを防ぎ、九尾の野望を挫いた…。」「

少尉「巡り合わせで…たまたまだ。殆ど君や軍曹の働きじゃないか？」「二曹「私たちが纏まれるのは、少尉がいるからです。」「…そう思ってくれるなら、素直に嬉しいな。このまま駅まで送ろう。軍曹のワケの分からん用事で手間をかけたな。武術の話、面白かった。勉強になったよ。」「…そんな…。」「

二曹「ここで大丈夫です。」「少尉「考えて見れば…どこでも二曹は

大丈夫だな。対人近接戦闘では、確実に君は私より強い。とは言え、まあ気を付けてな。写真の処分、すまんが頼む。」「お任せ下さい！」「…やけにいい返事だな。」

少尉（…これでいいのか？軍曹。）

二曹（少尉とお散歩していっぱい話せた…それより何より…眼鏡の少尉の写真パネル？）

二曹「…ふふふふふ」「子供「ママあ、あのお姉ちゃん一人で笑ってるよあ。」「母親「年頃のお姉ちゃんにはね…色々あるのよ。あなたも大きくなれば分かるわ。」

二曹「ふんふんふん？ ど、こ、に、い、て、も、ら、お、う、か、な〜」「【ヒラ…】「あれ？何か落ちた…メモ？」「メモ『少尉と過ごした時間：プライスレス。写真パネルの実費：3150円。 f r o m 軍曹』」

二曹「…悔しいけど…高い！とも思えない…！あ、裏にも何か書いてある。」「メモ裏『写真パネル「少尉ver眼鏡」を購入した方は他にこんな物も購入しています。専用スタンド…525円 専用フレーム…735円 元画像データ…6300円』」「リアルな値段設定…。軍曹…どこへ行くこうしてるの？」

軍曹「…ふ。」「大槻「どうした軍曹。何かあったか？」「あ、すいません。思い浮かべ笑いです。」「思い出し笑い、じゃないのか？」「ええ。『思い浮かべ笑い』です。」「…？」

軍曹「フォックス型通信を探知！メロンパン値692…695…7

00…。あれ？下がり始めた。600…650…500…急速に下がる。」大槻「ブログ更新の通知だけ、か？」

軍曹「…1月14日！開催予告。」大槻「前線と笠岡、司令にその旨連絡。」「了解。念の為、笠岡に裏取ってもらいます。」「頼む。」

軍曹「笠岡より返電。予告自体の確度92.2%±4、開催確率91.1%。」大槻「まず間違いないな。」「ええ。…大きな波が来そうです。」

軍曹「フタヨン回る。TL異常なし。メロンパン値0.04m r p。笠岡沈黙。兆候なし。」大槻「逆に14日までは、平和に過ごせそうだな。」「甘いですよ副司令。平和そうに見えて…その実、人知れず情報戦の火花は閃いているんです。」「そうだな。油断は禁物か。」「軍曹（…特に二曹と司令の間で。）

二曹「……。」「

二曹「…やっぱりどかさう。写真の前にミカンとかあると…遺影みたい。」

二曹「あ！…今気づいたけど、この少尉が手に持ってるの…『姑獲鳥の夏』！…ほんとに、読んで下さってたのね…。」

二曹「あーっもう！少尉っ？」「【ゴロゴロゴロツ！】

二曹「…何やってんだろ、私。…寝よ。」

二曹「お休みなさい、少尉。」

二曹(……)。

二曹(…元画像データ…6300円、か。…だめだめ！軍曹の思うつぼだ。…でも元画像データがあれば…私の本を眼鏡で読んでる少尉の写真をプリントアウトし放題…いや。…おかしい。そんな枚数いらぬよ、ストーリーじゃないんだから…疲れてるのかな、私。なんか…思考が変。…ほんとに寝よ。)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4208ba/>

少尉と軍曹3

2012年1月12日00時50分発行